

活動実績 (2018年6月～11月)

- 【地域活動】
- サガリバナ観賞会:国場集落6/24(日)、首里崎山町馬場通り6/30(土)、末吉公園7/7(土)、8(日)
 - 自然と環境の学習の場創り事業
 - ・緑化活動:北岸6/9(土)、7/28(土)、9/15(土)、10/20(土)、11/10(土)、南岸8/21(火)
 - 水辺講座@漫湖水鳥・湿地センター
 - ・OEC自由研究お助け隊:8/7(火)、8/14(火)、8/16(木)
 - 出前講座
 - ・緑化推進講座@那覇市緑化センター:「サガリバナの育て方」6/10(日)、「アクアプランターで水辺の植物を育てよう」7/15(日)、「タネの標本箱づくり」8/19(日)、「はじめてのテラリウム」9/16(日)、「木の実でオリジナル小物を作ろう!」10/28(日)、「草木染 初心者講座」11/4(日)
 - ・みどりの講演会:7/27(金)
- 城南こども園親子レク:8/4(土)
- 第4回おきなわエコツアーリズムセミナー 10/13(土)
- 団体受入れ
- ・トヨタソーシャルフェス:7/14(土)、11/18(日)
 - ・NECマネージメントパートナー:7/28(土)
- エコツアー
- ・ライトトラップ:8/6(月)、9/13(木)、10/15(月)
 - ・街なかde自然体験:11/22(木)
- イベント出展
- ・おきなわ国際協力・交流フェスティバル:11/23(金・祝)、11/24(土)
- 【国際協力】
- 受託事業
 - ・JICA研修員受入事業
 - 島嶼観光持続性強化:7/23(月)～8/24(金)

- 熱帯・亜熱帯におけるエコツアーリズム企画・運営:10/9(火)～11/22(木)
- ・JICA草の根技術協力事業「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」:2017/3/15(水)～2020/3/31(火)



JICA国際協力・交流フェスティバル11/23、24

活動予定 (2018年12月～2019年5月)

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
 - ・緑化活動:南岸12/15(土)、北岸1/19(土)以降、毎月開催予定
 - 出前講座
 - ・緑化推進講座@那覇市緑化センター:「うちなー素材でクリスマスリースづくり」12/2(日)、「アラマンダの育て方」1/20(日)
- 以降、毎月開催予定、内容未定
- 第4回水と緑の講演会:2月予定
 - イベント出展
 - ・第24回_国場川水あしび:12/8(土)
 - 会員交流企画「漫湖・野鳥観察ウォーキング」:3/9(土)
- 【国際協力】
- 受託事業
 - ・JICA草の根技術協力事業「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」:2017年3/15(水)～2020年3/31(火)

お知らせ

会員・ボランティア募集

入会申込はホームページからお願いします。緑化活動をお手伝いして下さるボランティアを随時募集しています。お気軽に電話やメールでご連絡ください。



サガリバナ観賞会2018アルバム

6月24日～7月8日に国場、首里崎山町、末吉公園でサガリバナ観賞会を開催した。



国場の観賞会では新たに仲井真のサガリバナも観賞



台風迫る中開催した首里崎山町観賞会



末吉公園でライトアップされたサガリバナ



末吉公園で咲き始めた花にミツバチ



大嶺さんから庭のサガリバナの話をお聴き

達人デリバリー (出前講座) ミライへ・プロジェクト (団体受入)

お申込み・お問い合わせはこちらまで!
TEL 098-833-9493
E-mail gyomu@npo-oec.com

OEC ニュースレター

～ 自然と環境の保全は足元から ～
特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ (OEC)

vol.31
2018年12月発行

主な活動のご紹介

- 【1面】
- ミライへ・プロジェクト(団体受入)
 - 水辺の植生再生活動
 - 達人デリバリー(出前講座)

- 【2面】
- ワンギ☆ワンギ島通信 No.4
 - サポーターの声:塩浜園芸
 - 夏休み自由研究おたすけ隊

- 【3面】
- マングローブのつぶやき～その13～
 - JICA研修:島嶼観光・エコツアーリズム
 - 第4回おきなわエコツアーリズムセミナー

- 【4面】
- 活動実績
 - 活動予定
 - お知らせ
 - サガリバナ観賞会2018アルバム

トピック① ミライへ・プロジェクト(団体受入)

ミライへ・プロジェクトは、修学旅行や企業のCSR活動などの団体を受け入れ、OECの環境学習プログラムを提供する事業である。那覇市の住宅地の中で史跡や自然環境が保全されている末吉公園や、街なかにもありながらマングローブ湿地の動植物が観察できる漫湖などをフィールドとして、「身近な自然との共生」をテーマに実施している。

今年度は、これまでNECソリューションイノベータ様への「ホテル観察」と、トヨタソーシャルフェス様への「サガリバナとホテル観察の夕べ」と「街なかの水辺環境を学び保全しよう!」を実施し、3回で延べ290名が参加した。

OECはこれまでエコガイドを多数養成してきたが、この人材を活用しグループに分けて体験学習を実施することで、

100名を超える参加者でもプログラム提供が可能であり、これが大きな特徴となっている。

また、ミライへ・プロジェクトは、申し込み団体の希望に合わせてオーダーメイドで企画するプログラムである。過去には、学習の効果を高めるために参加型のグループディスカッションを組み込んだこともある。

これらの特徴を生かし、これからはさらに事業を展開していきたい。

(事務局長 立田亜由美)



7月14日に実施したトヨタ・ソーシャルフェス

トピック② 水辺の植生再生活動

沖縄の水辺の多くは護岸工事や河岸の埋め立てなどで自然環境が壊され、また外来の植物種の勢力に負けて、在来の水辺植物の野生生育環境は悪くなる一方である。

OECは、国場川河口域の「漫湖」河岸

を中心に、土地管理者の許可を得て、サガリバナや在来の水辺の草花を植える活動を「水辺の緑化ボランティア活動」として毎月1回土曜日に実施している。

植栽する苗は種から育てているが、この苗床作業に新たに作業台といすを導入したことにより、ボランティア同士の会話も弾み、楽しさが増した。

(事務局長 立田亜由美)

トピック③ 達人デリバリー (出前講座)

OECは、親子レクリエーションやクラブ活動、市民講座などに講師を派遣する「出前講座」を有料で実施している。今年度は、これまで那覇市緑化センターの緑化推進講座や、城南こども園の親子レクに講師を派遣した。

より多くの利用者の皆様の要望に応えられるように、外部の人材の協力も

仰ぎながら実施している。また、出前する基本メニューのほかに、要望に合わせたプログラム作りも可能である。

(事務局長 立田亜由美)



新たに導入した作業台といすで快適な苗床作業



那覇市緑化推進講座で作ったテラリウム

特定非営利活動法人
おきなわ環境クラブ

OEC

〒902-0075
沖縄県那覇市国場370番地307号室
TEL 098-833-9493
FAX 098-833-9473
ホームページ
http://www.npo-oec.com
e-mail kokuba@npo-oec.com
www.facebook.com/OkiEnv

ダイバー秘境 ワンギ★ワンギ島通信 No.4 JICA草の根プロジェクト@インドネシア・ワカトビ海洋公園

熱帯生活も2年目、早くも後半に突入です。
 常夏の中、沖縄で研修を受けた住民達との冒険&文化ツアー作りが続いています。
 内4ツアー(スノーケル、ケイビング、アダンのランチョンマット作り、タロイモのごちそう作り)は、8月にモニター体験をしました。初回は女性1名、2回目は男性3名、異年齢層の邦人客です。言葉の壁対策に、プロジェクトチームは英語入りの「見せる」説明本を開発し、指導しました。特に若いメンバーはそれをよく練習し、当日の説明が非常に流暢にでき、大きくレベルアップしました。皆緊張し、相手が1人とグループでは難易度が全く違うと分かったり、笑顔ももらって達成感を感じたり、沢山の刺激を得ました。ツアーの評価も概ね高く、モニター参加者との意見交換会、アンケート、ビデオ等を参考に、さらなる改善・工夫をしています。体調不良等でモニター実施に至らなかった住民メンバーには、悔しさをバネにした今後の頑張りを期待しましょう。



(研究員 山本朝子) 【上】栈橋の下やすぐ近くに魚や多様なサンゴがたくさん 【下】感無量、難関の極細穴も通り抜け、洞窟から生還!

トピック④ サポーターの声：塩浜園芸



塩浜園芸代表の塩浜康治さん

塩浜園芸は、花卉や樹木、種苗を販売する卸売業者。3,000坪ある敷地で100種類以上の植物を取り扱っている。笑顔が魅力的な代表の塩浜さんは農学部出身で、厚生労働省認定ものづくりマイスターの資格を持つ植物の専門家。OECの下地会長が緑化種苗について情報収集している時に出会い、今でもサポートいただいている。
 塩浜園芸の営業方針をお伺いしたところ「質の良い物を提供すること」と回答いただいた。また、この方針のもと、これからも地道に営業して行くとおっしゃっていた。

最後にOECへの要望をお伺いしたところ「ちゃんともうかっているの?」と笑顔で逆質問され、あたふたした。
 頑張りますので、OECをこれからもよろしくお願ひします!
 (研究員 高嶺正満)

トピック⑤ 夏休み自由研究おたすけ隊

夏休み真っ只中の8月、漫湖水鳥・湿地センターにおいて近隣の児童・学童クラブを対象にした自由研究教室を開催した。当クラブが主な活動場所としている国場川河口域「漫湖」周辺を散策しながらマングローブなどの植物を観察したあと、その植物にちなんだ材料を使って作品を仕上げる講座だ。「海岸植物の世



ヤンチャな男子も、工作に夢中



サキシマスオウノキの解説に聞き入る

界!」では湿地帯を再現したアクアプランターを、「たねの標本箱づくり」では乾燥種子を使った標本箱を作った。みんな工作が上手く、色使いや部品を付ける場所など型にはまらない自由な発想力が光る作品を仕上げ、夏休



国場川河口域「漫湖」左岸の様子(11月9日)

み自由研究の提出物として申し分ないものばかりだった。この教室は、来夏も開催予定。お問い合わせはOECまで。
 (研究員 高嶺正満)

コラム マングローブのつばやき ～その13～ 濡れ衣を着せられるヒルギ



宮古島北海岸の漂着ゴミ

基地建設でゆれる辺野古の計画が持ち上がった頃、大浦湾の奥で満身ビニールをまとったメヒルギの姿が本土の中央紙に大きく載った。時に、マングローブは水環境問題の象徴的な存在となる。
 国場川河口にある「漫湖」の左右両岸に流れ着くゴミを、マングローブのせいにする人が少なくない。マングローブが「濡れ衣を着せられ」、漂着ゴミの原因であるかのように言われることがある。ここの漂着ゴミは、国場川と饒波川の流域から流れ着いたものが全てで、河口の那覇港を経て外海から入ってきた漂流物ではない。春と夏の南風の頃には

漫湖の右岸に、秋と冬の北風の頃には左岸へ、大雨や台風の後、特に著しい数のゴミが吹き寄せられる。これらの多くが人間の生活や生産活動から出たもので、原因は他人ごとでなく私たち一人ひとりにあることを、ゴミの種類が如実に示している。

しかし、流れ着いたゴミに混じって無数の植物の種子を見つけることができ



大洋州ミクロネシアのボンベイ島内湾奥の漂着種子



那覇市市場のサキシマスオウノキ実

る。今も1本生き残っている国場十字路近くのサキシマスオウノキは、漫湖南岸で漂着ゴミに混じってウルトラマンの頭の形をした種子を数個見つけたのがきっかけで探し当てたものだ。
 南太平洋のミクロネシア島々では、今も河口や内湾の岸で様々な形をした漂着種子が数多く見られる。近年はマイクロプラスチックやレジ袋など、海の漂着ゴミが大きな問題になっているが、いつの日か、島崎藤村の「椰子の実」を口ずさみながら散策できる海岸にしたいものだ。
 (会長 下地邦輝)

報告① JICA研修 島嶼観光・エコツーリズム



ナゴバイナップルパーク視察(島嶼観光)

今年度OECが実施するJICA研修は①「島嶼観光持続性強化」コース(英語)と②「熱帯・亜熱帯地域エコツーリズム企画・運営」コース(スペイン語)の2コースだった。
 ①には6か国6名の研修員が参加し7月23日～8月24日までの5週間、県内の様々な観光の現場を視察して沖縄の観光を学び、自国の観光の持続性を

強化するための方策を考えた。本コースには、OECの草の根プロジェクトからも1名部分参加した。
 また、②には9か国9名が参加し、10月9日～11月22日の7週間、県内のエコツーリズムを体験して学び、帰国後の活動計画を立てた。
 (事務局長 立田亜由美)



西表島でのプログラム体験(エコツーリズム)

報告② 第4回 おきなわエコツーリズムセミナー

10月13日に、富士山エコツアーガイドの近藤光一氏(富士山登山学校ごうりき代表)を講師に迎え、「ぼくの職場は富士山です～合力の流儀～」をテーマに、エコツーリズムセミナーを開催した。ご自身の経験を織り交

ぜながら、エコツアー事業者の経営や持続性、ガイドスキルについて大変興味深いお話を語っていただいた。
 (主任研究員 川上典子)



富士山登山学校ごうりき代表 近藤光一氏